

# 木質感と成型性を併せ持つウッドプラスチック。成長する市場で専門の強みを生かし躍進する。



テラスデッキや公園のベンチなど  
耐久性が求められる場所で活躍

天然木材のような木質感と、プラスチックの特性である熱可塑性(加熱により軟化する性質)を併せ持つウッドプラスチック。木材よりも高い成型性と生産性を持つ上、腐食に強く、乾燥による収縮が少ないなど優れた特性が多くある。1990年代の登場以降、建築材料を中心に普及が進んでいる。

業界団体によれば、ウッドプラスチックの国内総生産量は現在年間3万3千トン。その1割弱に相当する年産3千トンの生産量を誇るのが甲賀市にある株式会社K&Mだ。

メイン製品は、米国ストランデックス社とのライセンス契約に基づく「ストランデックス合成木材」。製材所から出る端材や建築解体廃材に環境にやさしい

違うなど、ユーザーのニーズはさまざまだが、材料の多面的な性質を熟知した上で、最適な配合を行えることが当社の最大の強み。さらに添加剤や金型構造にも工夫を凝らし、総合力で求められる製品を実現できるからこそ、現在のポジションを得られたと考えている。

## 大企業の不採算事業を引き継ぎ 困難な再生に挑む

押出成型ラインや木質感を高めるためのサンディング(やすりがけ)ラインの構築など、多額の初期投資が必要で、新規参入が少ないのがウッドプラスチック業界の特徴だ。国内市場は大企業を中心に、10社ほどで占めている。その中で、専業を貫くK&Mは特異な存在であり、「専業であるため、あらゆる面での意志決定が速く、フットワークも軽く、そこも強みになっている」と和田社長は胸を張る。

同社の設立は2009年。住宅建材や工業部品を幅広く手掛ける大手合成樹脂加工メーカーから、ウッドプラスチック事業を譲渡される形で設立した。その大手メーカーは98年からストランデックス合成木材を手掛けてきたものの、市場の成長が予想外に遅かったため不採算事業となり、売却することになった。

大企業が不採算に終わった事業を引き継ぐ。しかも、専業なので後がない。当

オレフィン系ポリエチレンを混合し、それを押出成型によって多様な断面形状の板材に加工。廃材を再資源化する点で循環型社会に適応した建築材料だといえる。

製品の多くは商社経由で総合建材メーカーへ供給され、住宅用テラスデッキや公園のベンチなどに利用されている。雨や直射日光に長年さらされても変質しにくく、曲がりや歪みも少ないウッドプラスチックの優れた耐候性、耐久性が求められる場所だ。

## 材料配合ノウハウを駆使して 多様な製品を生み出す技術力

「自社の試験では、シロアリへの耐久性がヒノキ材やスギ材よりずっと高く、ブナ材よりも経年による腐朽(ふきゅう)が格段に少ないことが証明できている。ホルムアルデヒド等もゼロに等しく、丈夫で長持ち、

時の和田社長が背水の陣の心境だったことは想像に難くない。同時に、そのリスクを呑み込んで、なお余りある可能性をウッドプラスチックに感じ、「市場の変化にきめ細やかに対応できる専業でなら軌道に乗る」という目算もあったという。

## 利用用途を広げるため 新たな分野へチャレンジ

結果として、和田社長の挑戦は「吉」と出た。設立からほどなくシックハウス症候群対策が建材に求められるようになり、安心・安全な建材としてウッドプラスチック市場は年を追って拡大。設備と生産ノウハウを受け継いだK&Mは、意志決定の速さを生かしてその好機を逃さず、短期間で「業界トップ5」のポジションを手に入れた。

「競合相手は大企業ばかりなので、原料調達コストについてはスケールメリットの点でかなわない。それを補うのが、ス

しかも安心安全な建材といえる」。和田正行社長はストランデックス合成木材の優れた特性についてこう話す。一方、自社の強みについては「最終ユーザーである建材メーカーが求める多様な製品を、意図通りに作り出せることだ」と話す。

その核心部分は、木質とプラスチックの混合比率にあるという。「木質の比率が高いと木質感が増し、プラスチックの弱点である熱収縮性も良くなる半面、強度の低下といったデメリットも生じる。使用する場所により要求される強度も



公園にもなじむ木質感のあるベンチ



デッキ、フェンス、パーゴラなど多様な用途で利用されている



速さが特長のストランデックス合成木材の押出成型ライン

トランデックス合成木材の特長である成型の速さ。生産コスト面で強い競争力があるおかげで、大企業と互角に渡り合うことができる。

そう話す和田社長は、滋賀の間伐材を活用するなど、有利な原料調達の仕組みを構築し、競争力をさらに高める道

を探り始めている。得意分野であるエクステリア市場がそろそろ成熟化しそうな気配。ルーバーやフェンス等の新分野に目を向けるほか、住宅用外壁材としての可能性にも期待を注ぐ。「ウッドプラスチックの用途は今後も広がりが続けるだろう」。

### Profile

#### 株式会社K&M

- 本社/甲賀市甲南町柑子2002-41
- 設立/2009年
- 資本金/9,900万円
- 従業員数/50名
- 事業内容/合成木材の製造販売、およびそれらに付随する業務全般

<http://k-and-m-co.jp/company.html>



代表取締役社長  
和田 正行氏

### Voice

当社のストランデックス合成木材は建築廃材等を再利用するエコロジカルな商品です。さらに資源循環に貢献するため、県内の間伐材などの有効活用も模索していますので、ご協力いただける方はお声掛けください。